私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所　宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801　田村ビル５Ｆ
TEL　022－265－２６０１
FAX　022－263－８２６６
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人　坂　田　　匠
1日・15日　月2回発行　1部 50円

安保法制の運用と憲法9条
～南スーダンの現状から考える～
日にち▶：2016年12月9日（金）
時　間▶午後6時～（開場午後5時半）
場　所▶仙台弁護士会館4階
入場無料・予約不要
主催:仙台弁護士会
問い合わせ:仙台弁護士会TEL:022-223-1001

認知症になっても安心して住める街づくりを目指して

南光台地域包括支援センター　社会福祉士　鈴木弘人

南光台地域包括支援センターは総人口2万3647人、高齢化率25・77％（仙台市全体22・17％）、75歳以上人口率は12・78％（同10・34％）と比較的高齢化が進んでいる仙台市泉区南光台地域を担当しています。認知症に関する相談も年間70～80件程度が寄せられています。

地域ケア会議

2015年1月に発表された『新オレンジプラン』では基本理念として、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」とし、7つの柱を提唱しています。その7つの柱の一つに、「認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進」があります。地域づくりの一環として、徘徊等に対応できる見守りネットワークの構築が例示されています。（資料1参照）

南光台地域では、地域包括ケアシステムの構築に向け、『認知症になっても安心して住める街』づくりを目指し、地域ケア会議や多職種連携の有志の会などで、私たちに出来ることはないか話し合いを続けてきました。

当センターでも保護された徘徊高齢者の身元の問い合わせが度々寄せられるようになり、当センター所長の提案で「SOSネットワーク南光台」を構築することになりました。

SOSネットワーク南光台

南光台地域で認知症の人が行方不明になられたときに、ご家族の要請のもとに、南光台交番より南光台地域包括支援センターへ連絡が入り、協力登録されている会社・団体等へセンターからFAXにより協力をお願いします。発見につながる情報は、南光台交番に連絡していただくというシステムです（図①参照）。

南光台交番の所長に協力を依頼し、センターと交番の連名で地域団体へ説明とシステムの説明を実施し、8月より登録を開始しました。2ヶ月経過した10月の段階で通報件数は0件ですが、登録団体は18団体・個人にまで拡大しました。

認知症になった時に、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、周囲の人たちによる暖かい見守りが不可欠です。これからも、「SOSネットワーク南光台」を活用して、地域の方に認知症に対する理解を普及し、地域による支援体制づくりを進めていきたいと考えています。

南光台交番所長さんからも、認知症の人を取り巻く現状とネットワーク構築に至る経過の説明を行い、地域の方へ「SOSネットワーク南光台」への協力をお願いしてもらいました。

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）　資料1

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～の概要

- 高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加。2012（平成24）年462万人（約7人に1人）→2025（平成37）年約700万人（約5人に1人）
- 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。

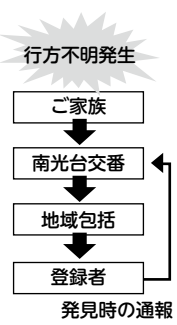
新オレンジプランの基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

- 厚生労働省が関係府省庁（内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）と共同して策定
- 新プランの対象期間は団塊の世代が75歳以上となる2025（平成37）年だが、数値目標は介護保険に合わせて2017（平成29）年度末等
- 策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取

七　つ　の　柱

①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
③若年性認知症施策の強化
④認知症の人の介護者への支援
⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
⑦認知症の人やその家族の視点の重視



（図①）

みやぎピーチャリ2016

民医連そこまで言って委員会!?

ケアステーションあゆみ　作業療法士　福岡　祥子

沿道で目立つアピール

11月3日（祝）、七ヶ浜を舞台に第9回みやぎ反核平和自転車リレー（通称ピーチャリ）が行われ、35名が参加しました。

第一部は「七ヶ浜ピースアクション」ということで、実行委員長の千葉茂樹医師と事務局長の中川恵介さん先導で、坂総合病院から七ヶ浜を周るコースでした。途中多聞山にて、七ヶ浜の歌川渡町議より七ヶ浜の復興状況のお話をいただき、その後二ヶ所で街頭からの平和アピール行動をしました。歌川さん宅がゴール&昼食休憩場所となり、みんなで美味しくカレーと豚汁をいただきました。

多様な価値観を感じた

第二部は、坂総合病院にて水戸部秀利医師・今田隆一医師をご意見番として迎えた楽しく学べるパロディ企画『熱論！民医連そこまで言って委員会!?』が開催されました。有識者役の医師軍団と、ひと癖もふた癖もあるパネリストに扮した実行委員とで意見交換が繰り広げられました。討論のテーマは三つで、①沖縄高江から考える日本の平和 ②原発再稼動の動きについて ③民意を踏みにじる現政権の問題、最後は「アクションにつなげることが難しい民医連職員」について。パネリストの中には福島民医連の黒須茂樹さんも加わり、福島で起こっている住民間の格差やトラブル等、生々しい実情が語られました。

賛成派と反対派の意見を聞く中で多様な価値観があることや意見の相違を改めて感じ、自分ならどう考えるだろうか？自分ならどう反対意見の相手に伝えるだろうか？などと考えながら傍聴しました。最後のテーマ「活動に対する民医連職員」については、他のテーマ（問題）とは全く論点が異なると思って聞いていましたが、捉え方はシンプルで同じかな？と思うようになりました。民医連活動や平和行動等に積極的な職員と、それほど関わっていない職員、どちらが良い悪いではなく、〝関わっていない職員の思いやそれぞれの置かれている立場や背景を知り、その上で、どうしたら一緒に活動に関わってもらえるか〟を考え行動していくことが大切なのではないかと思います。みやぎピーチャリは有志で集まり取り組んでいる活動であり、仲間を増やしていくことは大きな力となります。

民医連そこまで言って委員会、終了時！

〝民医連職員として個人として何ができるか？それぞれの経験や思いを語り、共有する場〟となるこの活動を継続していくために、来年は仲間をたくさん誘って参加したいと思います。

健康手帳

健康とは心身はもちろん、周りの人達含め皆が健康であることが条件だと思います。仕事でのイライラや日常での不満含めて不健康な状態です。▼そんな肉体的ではない不健康を私は音楽とお酒で解消しています。楽器を自分で演奏するようになったのは高校生のころ。ビートルズやローリングストーンズなどの洋楽にはあまり興味を持てず、ひたすら、かぐや姫・陽水・拓郎、時にはキャロルを真似してギターを練習したものでした。▼今でも30年以上続けているバンド、いろんな曲を演奏します、JAZZ中心ですが、ポップス、歌謡曲…その場所で喜ばれる演奏をしています。好みの音楽・リズムってひとそれぞれ。▼これから2025年に高齢者数が最高となり、介護する側が少なくなる時代に突入します。懐かしの音楽はビートルズや矢沢（※1）が聴きたいと変わってくるでしょう。▼どんな介護ができるのか、ではなくされたいのか。どんな老後を描くのか、それを私たちが創っていくことが課題であり、今後改悪が進むであろう医療・介護・福祉を守るためのさらなる事業展開、運動、共感の持てるなかま増やしを続けることを生きがいにしていきましょう。

（※1　キャロルのボーカルで矢沢永吉）

連載㊱

私の好きな憲法は何条？

泉病院　事務　吉田　若葉

私が憲法で気に入っているのは、一人ひとりを大切にしようと言っている13条なのですが、今回はそれを実現する方法の一つである28条について書きたいと思います。労働者の団結権、団体交渉権、団体行動権を保障しているのが28条です。私は、みやぎ青年ユニオンという労働組合で活動する中で、憲法28条の重要性を感じています。

青年ユニオンは、どの職場で働いていてもどんな雇用形態でも入れる労働組合です。いわゆる「ブラック企業」「ブラックバイト」など、不安定で劣悪な雇用条件で働く若い労働者から、さまざまな相談が寄せられます。未払い賃金やパワハラ、長時間労働などが混ざり合った問題での相談が多く、個人の尊厳が傷つけられているのを感じます。

相談者が行動を起こすことを決意した場合には、会社に団体交渉の申し入れをします。一人で相談に来た労働者でも、青年ユニオンなどの労働組合に入れば使用者と団体交渉をすることができ、使用者側は拒否できません。団体交渉であまりにも使用者側の対応がひどい場合には、会社や店舗の前で宣伝カーを停めてビラを撒いて抗議宣伝をすることもあります。

一般的には、「話し合い」は断られればそれまでですし、営業時間中にお店の前で宣伝行動をすれば威力業務妨害罪で逮捕されたり、会社の評判を落とすようなビラをまけば名誉棄損や信用棄損で訴えられたりしてしまうところです。でも、憲法28条とそれに基づいて作られた労働組合法のおかげでそうはなりません。労働組合というのは憲法と法律で保護されていて特別な力があるのです。これからも、労働者一人ひとりを大切にするために、この特別な力を使っていきたいです。

個々の経営の中の努力だけではどうにもならない部分もたくさんあるので、個別の企業との交渉だけではなく、業界全体や社会全体を視野に入れた運動も重要です。介護・福祉・医療の分野は特にそうだと思いますので、これからもいっしょにがんばっていきましょう。

みやぎ青年ユニオンのアピール行動

日本平和大会 in 三沢

平和を守るために 一人ひとりが当事者になって行動しよう

坂総合クリニック　事務　上田　克幸

日本平和委員会主催で10月22日23日、開催された日本平和大会に参加。米軍基地を抱える青森県三沢市で、「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地」をテーマに開催されました。全体で150人、宮城民医連からは4人の参加でした。安倍政権は、戦後初めて自衛隊を海外の「殺し殺される」戦場に送り出す準備をすすめています。しかも青森の自衛隊が候補です。平和大会と聞くとデモや硬いイメージをもたれる方も多いと思います。集会自体は現地の方々が様々な企画を準備しており、「平和」とは何なのかを考える有意義な時間を過ごすことができました。

南スーダンへ自衛隊を送り出すことに反対！

特に印象深かったのが開会集会内で行われたリレートーク。参加した各県の代表者が自分の思いをリレー方式で伝える時間でしたが、新聞やニュースとは違い実際に現地の皆さんから直接話を聞くため、発言者の感情がより伝わってきました。自分にない考えや意見が数多く、自分の視野を広げる貴重な時間になりました。

また青森の青年の皆さんと交流する時間もありましたが、青森の皆さんをみて見習う点がいくつもありました。積極的に行動し、活気に満ちあふれている面はもちろんですが、何より宮城に持ち帰ろうと思った点は事業所関係なく交友の輪が広いところです。交流会内で青森の方に「事業所が違うのにどうしてそんなに仲が良いのですか？」と質問したところ、「これが青森の良さだよ！」という答えが帰ってきました。この答えが自然と言えるくらい青年同士が交流し、協力しあえる関係を持つことが若い世代にとって必要なことではないかと思いました。

三沢に集まった参加者

民医連で働いていると「戦争法廃止」「安倍政権を許すな」「原発反対」と耳にします。ではなぜこのような思いを周りに伝えなければいけないのか。伝える方法は今のやり方でいいのか。平和ってそもそも何なのか。答えなく悩みだけが増えるかも知れませんが、一人ひとりが当事者になって考え行動に移すことが、何よりも大切なのではないかと大会を通して感じました。

第27回反核医師のつどいin宮城

医療者が、核兵器廃絶、脱原発の運動の一翼を担う

宮城厚生協会　事務　萩原　修

核戦争に反対する医師の会は、11月5日、6日の日程で東北大学・艮陵会館で「第27回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい・in宮城」を開催し、191人が参加しました。宮城の参加も50名を超え、前回の2倍でした。

同つどいのテーマは、震災・原発事故から5年。核廃絶・脱原発を被災地に寄り添い考えるとし、1日目に記念講演「核廃絶の国際的世論と核保有国の動向」美根慶樹氏（平和外交研究所代表）と特別講演『核の妄想』～なぜ日本人は核を受け入れたのか～」セシル・浅沼・ブリス氏（フランス国立科学研究センター・北アジア地域事務所副所長）を招き講演いただきました。

講演の様子

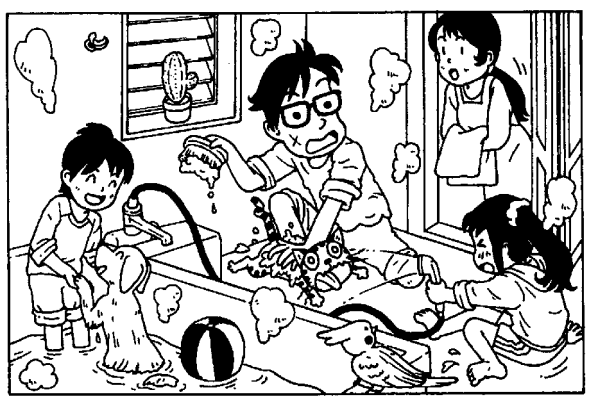
2日目に連続講座としてⅠ部では、「東日本大震災・福島第一原発事故被災者5年間の軌跡」峯廻攻守氏（札幌西円山病院名誉院長）、「福島復興の課題」今野順夫氏（福島大学名誉教授）、Ⅱ部では、「地震国日本における原発の危険性」大槻憲四郎氏（東北大学名誉教授）、「原発事故から5年―世界は脱CO2・脱原発が潮流に―」明日香壽川氏（東北大学東北アジア研究センター・中国研究分野教授）がそれぞれ講演し、議論されました。

最後に、「国連総会第一委員会での核廃絶交渉開始決議の採択を歓迎し、日本政府の『反対』表明に強く抗議する」特別決議と、「震災・原発事故から5年　被災地に寄添い考える　核廃絶・脱原発を」とのアピールを採択しました。

真剣にきく皆さん

特別決議は、国連総会第一委員会で提案された核兵器禁止条約制定の交渉開始を求める決議案に、日本が反対票を投じたことに、「被爆国政府として許されざる背信」と強く抗議し、今後の会議で日本が被爆国として主体的に参加し、核兵器廃絶に積極的な役割を果たすことを要望。アピールでは、「私たち医療者は、かけがえのない地球上のあらゆる命をまもるため、核兵器廃絶、脱原発を実現させる運動の一翼を担うことを決意し、あらゆる人々と共に歩むことを表明」しました。

なお、「反核医師の会」結成30周年の来年は東京で「記念のつどい」が予定されています。



7つのマチガイ

［問題］上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？（作・野上和彦）

クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただく場合があります。応募資格＝臨時・パート含む県連職員。締切12月29日当日消印有効。発表2017年1月15日号。10月15日号答え「ぶんかさい」・応募総数16件。当選者＝佐藤正子／坂総合クリニック。加藤千恵子／古川民主病院。今野牧子／坂総合病院。小林美奈子／長町病院。今野伸康／坂総合病院。（敬称省略）